

4月11日より帰国生徒学習会が始まりました！今回の「つながり」第2号では、新入生・編入生の紹介です。一人一人、滞在していた国や地域の体験や、これから楽しみにしていることなどを伝え合いました。

裏面の自己紹介には、滞在していた国、附属中学校で頑張りたいことなど、たくさんの思いが詰まっています。ぜひ、ご一読ください。

新入生・編入生

ようしくお願いします。



～保護者の方より～

ニューヨークで地震が起きた!!

この春休みに私たちは、かつて住んでいたNY市の郊外(Scarsdale や Catskill)などを再訪しました。ある日の午前中友人宅に滞在していると、ズズズ…ゴゴゴゴ…と一軒家に響き渡る大きな音が。「まさか地震?! アメリカ東海岸なのに!」と思いつつ家の外に出てみると、近所の皆さんも次々に出てきて、「今の何? 音聞こえた? これが地震なの?」と口々に。そう言えば、NYでも10年に一回くらいは地震がある、耐震性能が低いので、震度3ぐらいで壊れる家もあるかも、と聞いていた私は軽くパニックに。でも3階にいた息子達は「日本だったら震度2かな」と涼しい顔。実際にはマンハッタンの西側、New Jersey州が震源地で地震の規模はM4.8だったそうです。地震の受け止め方にもお国柄がでるものですね。

帰国学習会生徒保護者

多言語の影響を受けた英語の形

シンガポールで使われる英語には、主語やbe動詞を省いたり、語順が異なったり、動詞は原型のまま使ったりするなどの特徴があります。また中国語やマレー語の影響も多く見られます。例えば、何かがいらない時は、“No need”という表現を使います。中国語の「不要(búyào)」をそのまま英語に直訳した言い回しです。他にもローカルの人たちが使う表現に“Makan already?”と言うものがあります。“Makan”はマレー語で「食べる」という意味で、「もう食べた?」とお互いに尋ねることが挨拶として使われます。シンガポールに住む人は、国際的に活躍できる人材になるには標準と言われている英語を使えるようになる必要があることを理解しているので、使い分けができることを期待されます。親しい人とはシングリッシュで距離を縮め、ビジネスでは正しい英語を読み書きできることが教養とされています。

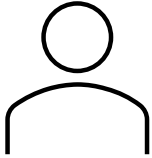
帰国学習会生徒保護者

新入生・編入生にインタビュー

名前 (滞在していた国) 附属中学校で頑張りたいこと

3年

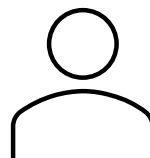
帰国学習生徒 (シンガポール)



シンガポールで培った経験を生かし、この附属中では自ら新しいことにチャレンジして、さらに成長できるように頑張りたいです。

3年

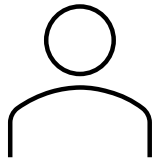
帰国学習生徒 (ベトナム)



ベトナムは、発展しているイメージがあまりないと思いますが、最近は発展してきている国なので、新しい情報を皆さんに届けていきたいです。

2年

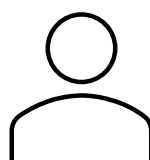
帰国学習生徒 (シンガポール)



僕が附属中で頑張りたいことは、仲間との絆を深めることです。まだ友達も少ないので、学校行事を通して増やしていきたいです。

2年

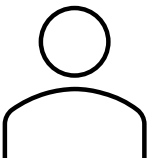
帰国学習生徒 (中国)



僕は、合唱コンクールをがんばりたいと思います。今まで、このような形で合唱する機会が少なかったので、うまく歌いたいです。

1年

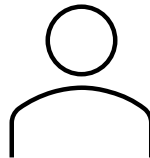
帰国学習生徒 (シンガポール)



頑張りたいことは、3つあります。それは、勉強・部活動・委員会です。一つ一つを一生懸命取り組みたいと思っています。

1年

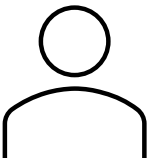
帰国学習生徒 (シンガポール)



僕は、応援団になりました。体育祭では、全力を尽くして頑張りたいと思います。

1年

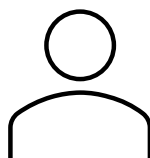
帰国学習生徒 (シンガポール)



学活や数学を頑張りたいです。
3月に日本に来て、日本の冬の寒さに驚きました。日本の暑さや寒さに慣れていきたいです。

1年

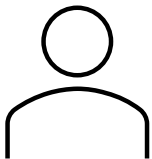
帰国学習生徒 (タイ)



僕が、タイで学んだ考えや情報をみんなに共有して、みんなの意見がより深くなるようにしていきたいと思います。

1年

帰国学習生徒 (シンガポール)



今まで部活動をやったことなく、今年度から初めて取り組みます。クラブなど何が違うかまだ分かりませんが、全力を尽くしたいと思います。